

令和7年度 徳島北高等学校 第1回学校運営協議会 議事録

1 日 時

令和7年7月7日（月）午後2時から午後4時40分まで

2 場 所

徳島北高等学校 大会議室

3 授業参観

会議に先立って、徳島ICT活用モデルのA〔増強〕段階の授業として、「一人一台端末」を活用した数学B（竹内教諭）および地理総合（宮本教諭）の授業を参観していただいた。

4 あいさつ・学校現況説明（向井校長）

5 委員委嘱・自己紹介

6 事務局説明

廣瀬教頭が学校運営協議会の概要と徳島北高等学校運営協議会要綱について説明した。

7 役員選出

会長として田原PTA会長、副会長として向井校長が選出された。

8 協 議

（1）学校経営方針について

向井校長が、令和7年度の学校経営方針等について説明し、承認された。

（2）教育課程の編成について

教務・情報課の野本教務主任が、令和7年度の教育課程の編成について説明を行い、承認された。

（3）学校評価計画について

企画課の松永課長が、令和7年度の学校評価計画について説明した。

◇ 委員からの意見

- ・ 今年度から導入された「45分×7限×週5日制」の校時変更について、アンケート結果では、生徒・教員ともにゆとりが生まれ、生徒の自主性が育まれているとの評価が

得られていることは大変意義深い。一方で、週単位で見た場合、授業時間の総量は減少しており、学習時間の確保や各教科の進度の維持などについて、今後も注視していく必要があるのではないか。

- ・ 教育課程に関しては、国際英語科において1年次に実施される海外語学研修の影響により、2年次に「総合的な探究の時間」が設けられていない点について、探究活動の継続性・持続性の観点から改善の余地があるのではないか。
- ・ 学校運営協議会の今後の在り方についても、従来の枠組みを見直す「パラダイムシフト」が求められている。学校が単独で努力するのではなく、地域を巻き込み、共に課題解決に取り組んでいくことが重要である。

(4) その他

今回の学校運営協議会では、2029年度からの学区制撤廃を見据え、県教育委員会からの指示に基づき、本校の魅力化・特色化に関して、委員の皆様からご意見をいただいた。

- ・ 今年度の「総合的な探究の時間」において、地域課題を外部の方々とともに考える取組が非常に素晴らしいと感じた。今後も、地域との連携をさらに深めながら、実践を継続してほしい。
- ・ 学校運営において、生徒の声を積極的に取り入れている姿勢は大変評価できる。地域とのつながりを強化することは、学校の「応援団」を増やすことにもつながる。校長先生が掲げる「自分で考え、自分の言葉で表現し、行動できる生徒」の育成に期待したい。
- ・ 地域密着型企業として、本校と連携しながら地域貢献に取り組んでいきたい。特に、今年度導入された校時の変更については、DX（デジタルトランスフォーメーション）の成功事例として、学校ホームページ等で積極的に情報発信してはどうか。
- ・ 「徳島北高でしかできないこと」をさらに追求し、近隣の学校にとどまらず、神山まるごと高専のように全国から生徒を募集するような気概を持って取り組んでほしい。「総合的な探究の時間」についても、成果発表で終わらせるのではなく、生徒がその経験を将来の行動に活かしていくような仕組みづくりが望まれる。
- ・ 地域課題に向き合うことを通じて、生徒自身が自らの生活や将来について深く考える機会が生まれる。地元の小・中学校との交流を積極的に進めることで、「憧れの学校」としての認識を高め、生徒募集にも好影響を与えるのではないか。